

先進地調査を行いました

● 総務常任委員会 ●

兵庫県
三田市

●日にち 令和5年10月4日(火)
●テーマ 「さんだ里山スマートシティ」について

●所感 三田市は、兵庫県の南東部に位置し、神戸市街地から北へ約25km、大阪市から北西へ約35kmの圏域にあり、人口は10万7千人余である。

ICT・IoT・AIなどのデジタル技術の戦略的な活用とデータ活用により、「市民中心で持続可能な課題解決を行うスマートシティ」に取り組んでいる。

市内10カ所にある市民センターを最大限活用し、マイナンバーカードによるオンライン申請の拡大などデジタル化の推進と合わせて、市民サービスの向上と業務効率化にメリットのある「行かなくてよい市役所」の実現を目指しているが、市民に浸透させ利用を促す点については課題を残した様子であった。



三田市での視察の様子

一口にDX推進と言っても地域性や特性を活かした技術の利用が必要であると感じた。あらゆる事例を調査、研究しながら本市に合ったシステムの構築を検討すべきと考える。

兵庫県
三木市

●日にち 令和5年10月5日(水)
●テーマ 業務におけるデジタル化の推進について

●所感 三木市は、人口7万4千人余、東経135度の日本標準時子午線上に位置し、神戸市、大阪市から比較的近くアクセスが良いまちである。

「スマートシティモデル事業」のモデル地区として、「誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化」を目指している。

市民課窓口での市民の手続きにかかる負担軽減と職員の業務改善を目指し、コンビニにおいて7種類の証明書の交付を可能とした。手数料を窓口交付よりも150円安く設定したことにより、全体の40%を超える利用となった。次に、住民異動手続において「書かない窓口」に取り組んでいる。

デジタル化は、市民サービスの向上と業務改善を目指し、市民にも職員にもメリットのあるものでなければいけないと感じた。また、電子申請やキャッシュレス決済など一つ一つではなく、全体の業務フローも視野に入れながら構築していく必要性を感じた。

● 経済建設常任委員会 ●

徳島県
徳島市

●日にち 令和5年10月31日(火)
●テーマ 徳島市地域自主運行バスについて

●所感 徳島市は、バス停や鉄道駅までの距離が遠いなど、日常生活の移動に不便がある公共交通不便地域において、地域住民が中心となって運営する地域自主運行バス(応神(おうじん)ふれあいバス・上八万(かみはちまん)コミュニティバス)等への支援を行っている。地域自主運行バスの停留所は、間隔を短くし、スーパー、病院の他、個人宅前など、30カ所近く設置されている。また、利用者の荷物を運ぶ、買い物の手助けをするなどの手厚いサービスも喜ばれており、車内では会話がはずみ交流の場としての役割も果たしている。多治見市も「自動車に頼らなくても移動できる公共交通づくり」を掲げ、地域公共交通会議を設置し、地域公共交通網形成計画を策定しているが、同じ市内でも地域によって移動に対するニーズが違うことから、その地域で求められている公共交通の在り方について、検討すべきと考える。

香川県
三豊市

●日にち 令和5年11月1日(水)
●テーマ 地元タクシー会社を含む12社共同で設立した「暮らしの交通株式会社」について

●所感 三豊市は、7つの町が合併し誕生した。合併後に「交通政策課」を発足し、「移動」をサービスと捉え、次世代モビリティサービスや* MaaS(マース)を推進している。三豊市は『行きたいときに 行きたいところへ行けるまち』を掲げ、繋ぐ・使う・守る・拓く、を基本理念として「三豊市地域公共交通計画」を策定している。多治見市においても幅広い関係者が地域公共交通について検討する地域公共交通会議を設置しており、今後、第8次総合計画、都市計画マスタープラン、立地適正化計画との整合を図ると共に総合交通戦略の実行計画として位置付け、地域に合った公共交通とは何か、ニーズを捉え、慎重かつ迅速に進めることが大切であると考え

* MaaS(マース)：バス・電車・タクシーなどあらゆる公共交通機関に、ITを用いて結びつけ、人々が効率よく、かつ便利に使えるようにするシステム。



三豊市議場にて

● 厚生環境教育常任委員会 ●

東京都
葛飾区

●日にち 令和5年10月4日(火)
●テーマ 学校法人東京シュレ学園東京シュレ葛飾中学校における不登校生徒支援の取組について

●所感 「学びの多様化学校」である同校は、フリースクールから始まり、中学校を設立して15年になるが、不登校支援へのノウハウが集約されていると感じた。「安心して学び育つ学園」を目指す同校に子どもたちは安心して通っており、教師を「スタッフ」と呼ぶなど、生徒と教師の垣根がない。また、どんな学校にしたいか子どもたちに聞き、「No チャイム」「No 制服」「No 朝礼」「No 怒鳴り声」を実践している。ホームミーティングでは、どの子どもも生き生きと活発に意見を言うっており、そこには学校に行きたくても行けず苦しんでいた姿はみじんも感じられなかった。彼らの下校と重なり、駅までの道を一緒に歩いたが、仲間と楽しく会話する姿は、本来の子どもの姿であると実感した。



東京シュレ学園での視察の様子

東京都
大田区

●日にち 令和5年10月5日(水)
●テーマ 太田区立御園中学校分教室みらい学園中等部における不登校生徒支援の取組について

●所感 「学びの多様化学校」である同校は、学校復帰が目的ではなく、自分を見つめ、将来のことを考え、自分で生きる力を培う「キャリア教育」に力を入れている。年間授業数も一般の学校とほとんど大差なく、しっかりと学習できる環境にある。「必ず自分に合ったところを見つけ出し、行きたいところに進学しています」との発言はこれらの成果であると感じた。子どもたちは生き生きと真剣なまなざしで授業を受けており、学校に行きたくても行けなかった子どもが、こうした「学びの場」に出会い、真剣に関わる大人がいることで、その後の人生が大きく変わったという現実を目の当たりにした。本市でも、こうした「学びの居場所」を望む声がある。財政面や場所の確保等さまざまなハードルはあるが、しっかりと調査研究を進め、少しでも早く設置できるよう、議会としても働きかけていきたい。

【QRコード】は株式会社デンソーウェブの登録商標です。
この議会だよりは1部当たり12.38円(税込み)で、40,300部作成しています。



リサイクル適性

たじみ議会だよりは環境に配慮した再生紙と植物油インキを使用しています。
この印刷物は、Aランクの資材のみを使用しており、印刷用の紙にリサイクルできます。

この印刷物を破棄する時は、燃やさないで、資源回収等に
出しましょう。